

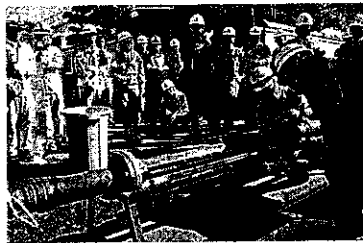
2017年(平成29年)11月15日

アイスピグ

# 宇美町、直方市で採用

## 下水道分野で九州初施工

アイスピグ研究会会員企業の環境開発は10月26日に福岡県宇美町、10月31日に同県直方市でアイ



圧送管188φを洗浄

スピグ管内洗浄工法による下水圧送管洗浄業務を実施した。下水道分野での同工法の採用は、九州では初。これに合わせて実施された現場員学会には、宇美町、直方市はじめ周辺自治体や民間事業者ら計90人が参加し、同工法への理解を深めた。現場員学会では環境開発の牟田幸平常務があいさつに立ち、「圧送管洗浄では高圧洗浄やピグ工法が主体であったもの

の、高圧洗浄では腐食劣化により管厚が薄肉化した箇所での破損、ピグ工法では曲管部での管閉塞のリスクなどが指摘されていた。こうした諸課題を克服したアイスピグ管内洗浄工法の特徴や洗浄効果を、目と肌で感じてもらえれば」と呼びかけた。

宇美町の洗浄対象管路は、平成7年頃に平和2丁目地内に布設の鑄鉄管(φ15)188φ、上下

流の高低差は約20φ。午後1時半頃に上流側のマンホールポンプ弁からアイスピグ2.2t分を注入し、高圧水で押し流した。約5分後には回収口に黒色に変色したアイスピグが排出され、約15分以内に洗浄作業は完了し

た。一方、直方市では下新入地内に布設の塩ビ管(φ100)250φを同様に洗浄した。洗浄後、宇美町では洗浄区間のマンホールポンプの平均運転時間の流量は11%回復し、直方市では稼働時間が約40%短

縮、流量は65%回復した。宇美町下水道課の担当者「町内に布設したマンホールポンプの現状把握を含め維持管理が今後の課題。今回の現場での洗浄効果を検証した上で、維持管理計画を策定し採用したい」と述べた。